

ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



第6号
平成27年10月発行

清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部環境生活政策課
地域コミュニティ室
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市藪田南2-1-1 (県庁6階)
電話 058-272-8199



① 瑞浪市釜戸町まちづくり推進協議会

活動拠点：釜戸コミュニティセンター内
〒509-6472 瑞浪市釜戸町2673番地の1
会長：隅田 敏博

地区の概要

釜戸地区の状況 人口 3,083人 1,125世帯 高齢化率 37.30% (市28.59%) (平成27年4月1日現在)

自然豊かな集落で、少子高齢化の中、昔ながらの地域性をうまく継承した地域づくりを展開している。まちづくり推進協議会(平成11年7月24日設立)は、住民ボランティアで組織され、コミュニティーセンター(公民館)及び自然ふれあい館と共にまちづくりの柱として機能している。区長会を始め、町民、各種団体・事業所と連携し、情報の共有化と生涯学習社会の形成をもって、『健幸・長寿のまち釜戸』の実現のための地域環境の整備を目指し、住みよいまちづくり活動を展開している。平成27年5月15日、「地域づくり」部門で、岐阜県各界功労者表彰(団体の部)受賞。

主な特色

●若者世代が地域行事に参加するような工夫をし、地域の良さを伝承、郷土愛を育成

- 地域の大きな行事『夏まつり』では、幼児から中学生まで発表の機会をつくることで、子育て世代も含めた参加となり、また、毎年新たな企画を設けることで、約半数の地域住民に加えて、町外からも参加する交流行事となっている。さらに、中学生ボランティアによる『お化け屋敷』の企画運営は、今年度の新たな試みで、地域行事の良い思い出となった。
- 夏まつりの目玉である『打上げ花火』は、毎年、町民の願いが籠った花火が打ち上がり、感動の時間となっている。
- 中学校“音楽”の授業に『太鼓学習』を取り入れ、郷土伝統文化継承の一翼を担っている。
- まちづくり推進協議会は、若い頃から地域文化に触れ、郷土愛を育み、大きくなってここに住みたいと思ってもらえるようなまちづくりの展開を考えている。

●公民館・自然ふれあい館と連携したまちづくりの推進

- まちづくり推進協議会が進める『健幸・長寿のまち釜戸』の基本構想の中、『自らの生きがいづくり』を公民館の重点目標、『自然と共生する地域づくり』を自然ふれあい館の重点目標として、健康づくり、暮らしづくり、人づくりを目指している。
- 夏まつり、文化祭及び釜戸の自然(竜吟峡、ハナノキ自生地、屏風山等)を活かしたイベントは、まちづくり推進協議会、公民館、自然ふれあい館がうまく役割分担することで、新しいアイデア等が盛り込まれ、参加者増につながっている。

●行政と協働したまちづくりの推進

- 市は、まちづくり推進組織に対する人的支援として、『地区担当支援職員』の配置、また、財政的支援として、『夢づくり地域交付金』の交付を行い、地域が自ら考え、自ら行うまちづくりの活動をバックアップしている。
- まちづくり推進協議会は、行政との協働で地域の課題解消や活性化に向けて取り組んでいる。



「夏まつり」の様子



「夏まつりお化け屋敷」の様子



「城山ハイキング」の様子

ポイント 地域のあらゆる人と団体が連携したまちづくり

区長会、公民館、自然ふれあい館、各種団体が連携し、一体となり、地域の課題、ニーズを把握しながら地域が自ら考え、自ら行動することをモットーとして、まちづくりに取り組んでいる。

今後の展望

平成31年度に中学校統合予定で、若い世代が流出し少子化が進んでいくと思われ、郷土愛の育成・強化の必要がある。平成27年6月に開設した釜戸少年育成サロン(放課後児童健全育成)のような事業を企画して子育てにやさしいまち、若者に魅力あるまちづくりを進めていきたい。役員の後継者不足が懸念されるため、今から何らかの対策を考える必要がある。

⑫ 各務原市緑苑地区社会福祉協議会

活動拠点：緑苑ふれあいハウス「ふらっと」
〒509-0114 各務原市緑苑中3-17
会長：安村 佳之

地区の概要

緑苑地区の状況 人口 5,304人 2,109世帯 高齢化率 33.37% (平成27年4月1日現在)

40年ほど前に順次宅地造成された地域で、坂が多い。

子育て環境が良く、住みやすいところだったが、年を重ねてみると坂がきつく、自動車がなければ買い物・通院等に不便である。空き家が多くなっている。

近所同士助け合おうと、自治会を単位とした近隣ケアグループが7か所立ち上がっている。

主な特色

●地域密着型ふれあいハウス「ふらっと」の活動

- 地域住民の交流拠点が必要との思いから誰でも気軽にふらっと立ち寄ってほしいとの意味をこめて、空き家だった築40年の平屋を活用した「ふらっと」が平成25年12月にオープンした。
- 『ふらっと』を地域の拠点として、住民同士がふれ合える場所であることを周知するため、市社協の協力のもと、広報として毎月のイベント内容等を紹介する『ふらっと通信』を全戸配布している。
- イベントの講師は、地域の人にお願ひし、住民の要望を基に月間スケジュールを立て、参加者が固定化しないよう工夫をしている。
- 食を通じたふれあいの場は、『昼ごはんをみんなで楽しく食べるためにふらっと寄ってみよう』といった感覚で参加できるような環境づくりに努めている。
- 子どもから高齢者までが自然に世代を超えて交流できるようなイベント等を企画して、誰もが気楽に来てくれる雰囲気作りをしている。
- 平成27年度からは、ここまで来られない人を含め、『ふらっと』をより多くの人に知ってもらうため、地区の集会所を利用して『出前ふらっと』を開催。お茶を飲んでお話をしたり、お昼をいただいたりと参加者も多く、好評である。
- 今後、各地区で開催していく予定である。



「親子で一緒に遊ぼう」の様子



「認知症予防脳トレ」の様子

●緑苑グリーン(地域通貨)による地域助け合い

- ボランティアやお手伝いのお礼として、『グリーン』を受け渡しすることによって、ご近所づきあいのきっかけを作り、高齢化社会に向けて、住民相互が助け合っているような環境づくりを行っている。
- 緑苑内の商店の協力により、代金支払いの際に『グリーン』を金券として活用できる。

ポイント

空き家を活用した地域住民の交流拠点づくり

地域の住民同士が交流し助けあうことが必要との思いから、地域の空き家を活用して交流の拠点を運営している。地域通貨『グリーン』の活用により、相互助け合いと地域の活性化を進めている。

今後の展望

地域住民の方に広く利用してもらい、地域の交流拠点として定着させていきたい。

男女問わず幅広い年齢層のスタッフにより企画実施し、魅力ある運営をしていきたい。

「自分たちの地域は、自分たちが育て・守る」を基本に、住みやすい・住んでよかったと思える地域づくりにつながると良い。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

「岐阜県コミュニティ診断士」を派遣します

県では岐阜経済大学と協同し、岐阜県コミュニティ診断士を養成、認定しております。地域の現状を把握して課題を抽出したり、住民の話し合いを進行してまとめる役割(ファシリテーター)を担ったりと、地域活動のお手伝いをします。ぜひご活用ください。

活動の例

高山市の大八まちづくり協議会では、コミュニティ診断士がファシリテーターとなって、まちづくりの活動計画づくりに関するワークショップを開催しました。



大八まちづくり協議会でのワークショップの様子

岐阜県コミュニティ診断士

検索